

めっかいもうさん！

種子島農業普及だより

編集発行 熊毛支庁農林水産部農政普及課 (年3回発行)

西之表市西之表7590(TEL(0997)22-0053,22-0742/FAX22-1729)



農政普及課長

でぐち ひろし
出口 洋

種子島農業の更なる振興を図るため、関係機関・団体と連携しながら、担い手の確保・育成や産地づくりに取り組みます。よろしくお願ひします。

技術普及係



いまいずみ ひろたか
今和泉 尋及

技術主幹兼技術普及係長

(技術普及総括、花き、スマート農業、経営者クラブ)

経営普及係



きさき けんや
木崎 賢哉

経営普及係長

(普及企画総括、果樹、就農ディレクター)

農業振興係



ときむら かなえ
時村 金愛

農業振興係長

(農業振興総括、農政企画推進、農林統計)



きよもと なぎさ
清本 なぎさ
技術専門員

(安納いも、農業気象)



そのなか みつのり
園中 光範
技術専門員

(野菜、土壌肥料)



しげみず たけし
重水 剛
技術専門員

(作物、学校連携)



おつじ ようこ
尾辻 陽子
技術専門員

(担い手、経営、食育)



おおく保 あきひろ
大久保 明彦
技術専門員

(きび、鳥獣害、植物防疫)



かわの みのぶ
川野 実
技術専門員

(畜産、草地・飼料)



しばた こうじ
柴田 幸児
技術主査

(畜産、青年、制度資金)



か こき さとし
鹿子木 聡
技術主査

(茶、農業機械、病害虫)



ながやま よしき
長山 佳樹
農業技師

(ブランド、園芸、茶、農業機械) (担い手、農振農地法、農業金融)



ふるいち ゆき
古市 夕紀
主査

(担い手、農振農地法、農業金融)



まえた くみ
前田 久美
技術主査

(さつまいも、水産、中山間)

2名の定期異動と3名の退職がありました。

- ◎ 定期異動 下夷 宏己(熊毛支庁農林水産部長)
- 園田 純也(県農政部農産園芸課)
- ◎ 退職 中原 俊一(農林水産部長)
- 水島 真一(技術主幹兼経営普及係長)
- 潮 恵 (技術主幹兼技術普及係長)

「サツマイモ基腐病」対策

もとぐされびょう

昨年、種子島でも大発生した「サツマイモ基腐病」について、本ぼでの対策と種いも生産について紹介します。

1 植付後の本ぼでの対策

(1) 排水対策

本病は水が停滞しやすい部分に発病が多いことから、ほ場周囲に額縁明きょを掘り、排水性の向上を図る。枕畦を設ける場合は、右写真のように途中に水路を設置し、排水溝に接続する。



(2) 発病株除去・薬剤散布

伝染源となる発生株は早急に抜き取り、ほ場外に持ち出す。

苗消毒の効果が低下する定植5週目以降は、抜き取り後に殺菌剤を散布する。

【薬剤散布の防除体系】

生育段階	 定植	 2～4週目	 5週目ごろ	 6週目以降 (梅雨の豪雨後) (台風通過後)
防除方法	ベンレート (苗消毒) 	苗消毒効果 銅剤 ・異常株の抜き取りと周辺株への散布	注1) アミスター ・全面散布	銅剤 注2) ・アミスターと交互に散布 注3) アミスター アミスター ・梅雨時期など豪雨後 ・雨風を伴う台風の通過後

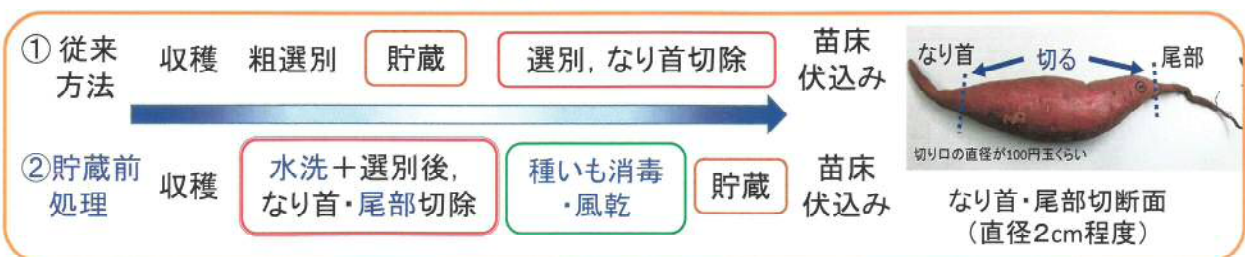
注1：アミスター20フロアブルは、収穫14日前までに3回まで使用可能。

注2：銅剤（Zボルドー水和剤・ジーファイン水和剤）は、収穫前日まで、回数制限なし

注3：アミスター連続使用では耐性菌が発生しやすいため、必ず銅剤と交互散布する

2 種いもの生産と選別・管理方法

- 種いも生産は病虫害発生のない、水はけが良い専用ほ場で行う。
- 栽培期間が120日程度で、重さ200～300g程度が萌芽・苗立ちに優れる。
- 収穫は、土が乾いた晴天日に傷(特に打ち傷)をつけないよう丁寧に作業する。
- やむを得ず、専用ほ場以外から種いもを採取する場合、発生が少ないほ場で、茎の地際部が黒変していない株から採取する。
- 種いもは下記のように、貯蔵前処理を行うことで、貯蔵中の発病を軽減できる。



今日も1日安全な農作業を心掛けましょう！

乗用型農業機械の運転時は、常に周囲の安全確認を！

繁忙期は特に注意！

- 1 周囲に人がいないか？危険箇所はないか？
- 2 急発進・急ブレーキ・急旋回を行わない
- 3 シートベルトやヘルメットの着用したか
- 4 携帯電話は身につけたか



収穫作業時の「ひかれ」による死亡事故が発生しています。「ひかれ」、「転倒転落」、「挟まれ」、「巻き込まれ」は、重大事故となる危険が高まります。安全第一で作業を行いましょ。

※イラスト：農業機械利用技能向上現地研修テキスト(2004)より

牛の暑熱対策をしっかりと！

今年も暑い夏がやってきます。牛は暑さに弱く、暑熱により、採食量や受胎率の低下等が引き起こされてしまいます。牛が健康で快適に過ごせるような環境作りが大切です。

1 気温の変化と牛への影響

牛は、気温が18℃を超えると、暑熱ストレスを感じ始め、体温を下げようと呼吸を浅く、早くします。24℃を超えると、体温調節が追いつかず、繁殖機能の低下や、胃での発酵熱を抑えようと採食量が低下し、繁殖障害や発育低下、免疫力低下に繋がります。

表 気温の変化と牛の状態

気温	牛の状態
24℃以上	体温の上昇する温度
18～24℃	暑熱ストレスを感じる温度
13～18℃	快適な温度
5℃以下	寒さで熱生産を開始する温度

2 効果的な暑熱対策

＜畜舎環境＞

- (1) 樹木や遮光ネット等の設置
- (2) 屋根に石灰乳や白色塗料を塗る
- (3) 扇風機・大型ファンの設置
牛舎内に風の通り道ができるよう設置

- (4) 牛体に散水・細霧装置の利用
→ 体表温を調節 ～湿度が高いと逆効果

＜飼養管理＞

- (1) 密飼いを避ける → 熱がこもるのを防ぐ
- (2) 冷たく新鮮な水を自由に飲めるようにする → 水分補給と体温調節
- (3) 早朝や夕方・夜間など涼しい時間に給与 → 採食量の増加
- (4) 良質な粗飼料を細断して給与 → 消化しやすくし、胃での発酵熱を抑制
- (5) 鉱塩の設置 → 発汗で失われたミネラル・ビタミンの補給



※ 対策の組合せはより効果的ですので、まずはできるところから実践しましょう！！

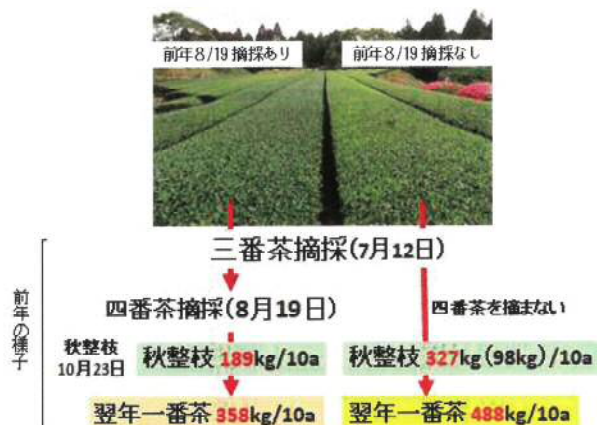
【茶】摘採（整枝）は7月15日頃～8月10日に！

8月中旬以降に茶樹の摘採（整枝）を行うと、生育期間等の不足によって樹勢が低下し、秋番茶と翌年一番茶が減収しやすくなります（下図）。その一方で、摘採（整枝）を7月15日頃～8月10日に行うと秋期の茶芽生育が早く進むので、台風による潮風害や網もち病対策面でも遅い時期の摘採（整枝）より有利になります。

令和3年度は茶期が早いことから、7月15日頃から8月10日までの摘採（整枝）が例年よりも行いやすい状況にあります。更新した茶園も同様です。来年の一番茶の収量品質を向上させるため、ベストな時期での夏期の摘採（整枝）を行いましょ！

8月19日に摘採（整枝）した・しない

‘やぶきた’試験事例（西之表市） 【3月28日の様子】



←8月19日に四番茶を摘採しなかったうねは、摘採を行ったうねよりも、秋番茶と翌年一番茶の収量が優れました。

←8月中旬以降に摘採（整枝）することが、茶樹の樹勢に悪影響を及ぼします。

※7月15日頃から8月10日までの適期における摘採（整枝）を行いましょ。